

THE RECORD 2

2001
No.495

- MIDEM2001で富塚会長が講演
- 2000年レコード生産実績まとまる
- 「著作権等管理事業法」説明会開催
- 統計資料－2000年1月～12月新譜数

RIA

Recording Industry Association of Japan

MIDEM2001で富塚会長が講演

世界最大の国際音楽見本市「MIDEM2001」が、1月21日（日）からフランスのカヌヌにおいて開催されました。当協会は、今回も（社）音楽出版社協会が開設する“JAPAN STAND”を後援し、富塚会長と生野事務局長が参加しました。“JAPAN STAND”には、当協会の他、文化庁、（社）日本音楽著作権協会、（社）音楽制作者連盟、（社）日本芸能実演家団体協議会、（社）日本映像ソフト協会、日本音楽作家団体協議会が後援しています。

今回からは、（社）音楽出版社協会のホームページ内にMIDEM 2001のページを開設し、ネットワークを通じた幅広い情報収集も可能となっています。

会期中の1月22日（月）には、（社）私的録音補償金管理協会の共通目的基金の助成を受けて、セミナー「日本の音楽産業2001」が開催され、以下の内容で講演が行われました。

「国際的視野から見た日本の著作権法制」	専修大学教授・法学博士 斎藤 博
「レコード産業の未来とデジタル配信」	当協会会長 富塚 勇
「音楽出版ビジネスの現状と未来」	音楽出版社協会副会長 朝妻一郎
「日本における音楽配信の現状」	音楽制作者連盟顧問 上出 卓
「日本が進めるIT革命の衝撃」	衆議院議員・元外務大臣 柿澤弘治

以上のうち、当協会会長富塚勇の講演内容について、ご紹介します。

「レコード産業の将来とデジタル配信」

昨年2000年は世界の音楽産業が二大海賊に蹂躪された年でした。二大海賊とは、ナプスターやグヌーテラなどの「ファイル共有ソフト」の利用による「インターネット海賊」、もうひとつはヨーロッパに始まりアジア諸国、アメリカ大陸まで広がった「CD-R海賊」です。

「レコード」という録音再生技術が発明されてからほぼ100年。世界の大衆音楽文化は、「著作権、複製権」という知的財産権を唯一の基盤として、発展してきました。この「音楽産業がよって立つ基盤」が、根本から崩壊してしまう危機に、いま私達は直面しています。

我々音楽産業界にとっては幸いなことに、日本においては、配信インフラ整備がアメリカより遅れていることから、「インターネット海賊」の被害はアメリカのごとく顕在化はしていませんが、これから大車輪で光ファイバー網などの敷設を進め、向う5年以内に4,000万家庭に、高速広帯域のブロードバンド通信を可能にするという政府方針が出されましたので、早急にオンライン海賊に対する法的措置、技術的措置を講じなくては、海賊が跋扈することは明らかです。

また、「CD-R」海賊については、これも幸いなことに海賊CD製造機が国内に輸入されているという実績はありません。

しかし、これらの海賊の跋扈を、対岸の火事と見ている訳ではなく、「明日は我が身」と考え、日本国政府も、正当な著作権の保護のため法的な準備を進めています。

「インターネット海賊」については、ナプスターのサービスがその代表的なものです。アメリカでは、RIAAおよび5大メジャー・レコード会社が原告となって「著作権侵害」としてナプスター社を提訴し、現在、控訴裁で裁判中であることは、皆さんご承知の通りです。

先般、ベルテルスマン社とナプスター社の間にある合意が成立し、ナプスターのサービスを音楽の有料配信に利用する道も開けつつあるようですが、「有料」というのがどのような形になるのかは、現時点では不明です。

昨年10月、ウェブノイズが発表したナプスター利用者の調査結果は驚くべきものでした。114人のナプスターのサーバーとユーザーにアクセスして、9月一ヶ月間のダウンロード曲数を推定したところ、なんと、13億9,000万曲という結果でした。仮にこれが12ヶ月続いたとすると、166億曲がダウンロードされることになります。もし、この166億曲のダウンロードに一曲1ドルの課金ができたと過程すると166億ドル。これはアメリカの一年間の全メーカーのCD売上額を上回り

ます。無料であるからこそ、これ程のダウンロードがなされていると言えます。有料となった場合、果たしてどの程度になるかは、やってみなければわかりません。

仮に、ある妥協がレコード会社とナプスターとの間に成立したとしても、グニューテラのようなゲリラ・シェアウェアは後を絶たないと思われます。

とすれば、あらゆるインターネット交信の中継者であるサービス・プロバイダー（ISP）に法の網をかぶせて規制するより他に、法的な措置は無いでしょう。アメリカのDMCA（デジタル・ミレニアム著作権法）はISPに対するひとつの規制ではありましたが、ロックバンドメタリカの訴訟によりその弱点を露呈しました。この愚を踏襲してはならないと、日本の「ISP規制法（仮）」の立法化に当たっては、より強いISPの責任と義務を課すように、私たちは政府の審議会に意見書を提出しています。

しかし、これには「通信の守秘義務」を盾にISP側から相当強固な抵抗が予想されますので、「著作権擁護」の立場からは必ずしも満足のいく立法にはならないのではないかと、との危惧もあります。言い換えれば、法的規制だけでは、「インターネット海賊」は完全に撲滅することは不可能との予測ができます。とすれば、技術的な規制により、法の不完全を補うことを考えねばなりません。

皆さんご承知のごとく、「インターネット海賊」も「CD-R海賊」も、その音源は市販のCDというデジタル音源からとっています。現在のCD、業界用語で「Red Book CD」と呼んでおりますが、これがパーソナル・コンピュータ（PC）にしるCD-Rにしる、デジタルコピーに対して全く無防備である、これがすべての根源となっています。

CDというデジタル・パッケージ・メディアが登場したのは約20年前です。それまでレコードの主たるメディアであったアナログディスクに比べて、ノイズが無く、小さくて簡便で、針を使う必要もなく、リモートコントロールでトラックの選択もできる、という利便性から、CDは瞬間にLPにとって代わりました。

しかし、CDが登場したときには、CD-Rの如きデジタル録音機も無く、またPCも無く、今日の如きCD-R海賊やインターネット海賊が出現するとは夢想だにできなかったため、CDはデジタル・コピーに対して全く無

防備の状態で規格（スペック）が決められた訳です。そして、何億台（ポータブルも含めればおそらく何十億台）のCDプレイヤーが普及し、何百億枚というCDが生産され販売されてきました。

いま、状況は全く変わってしまいました。一枚のオリジナルCDから、同時に20枚30枚というクローンが高速で製造できるCD-Rマシン（いわば「個人用海賊版製造機」）が製造販売され、また、CDから自由にその音楽を取り込めるPCが何億台と製造販売されて、音楽がインターネットに載ってタダで自由に流通してしまうという、著作権無法地帯が出現しました。

DVDオーディオあるいはSACDという、次世代オーディオを目指した録音再生技術が開発され、一部市場に出ています。これにはCDの二の舞を防ぐべくデジタルコピー・プロテクションの仕掛けがディスク・再生機に組み込まれています。しかし、次世代オーディオがCDに取って代わることは当分の間なさそうです。理由はふたつ。

1. LPからCDに変わった時のような、音源のストックが無い。すべてHi-end（高音質）の新録音が求められる。
2. 再生機をゼロから普及させねばならない。これには相当長い期間を要する。一方市場は、MP3などの圧縮音で満足するようなLow-end（それなりの音質）に向かいつつある。

従って、レコード産業はこれから先、当分の間、CDに頼らざるを得ないと言えます。とすれば、音楽産業を著作権無法地帯から護るためには、Next Generation CDを開発することが唯一の手段と言ってよいでしょう。

Next Generation CDに求められる条件は

1. 現存のCDの再生機で通常に再生される。
2. CD-Rへはコピー不可。可能としても1枚だけ。
3. PCへのRipping（コピー）不可。可能としても転送不可。

いま、複数の技術開発機関でこの技術が研究されていますが、昨年12月11日（CNET JAPAN：TECH News by Cecily Barnes / 日本語版湯田堅司）および15日（Webnoize News）のインターネット・ニュース・サイトに、きわめて興味深く、また励まされる記事がありました。

米国アリゾナ州フェニックスにあるSunn Commと

いう会社が、Next Generation CDの一つを開発したというニュース記事で、これによると、SUN-Xと称されるこの新技術を採用して製造されたCDに収録される音楽は、

1. パソコンに取り込むことができない。
2. CD-Rなどのデジタル・コピー装置にもコピーできない。

3. アナログ・カセットにはコピー出来る。

などの特色を持ちます。また、以下のような現象、現状が報告されています。

4. 1995年以前に製造されたCDプレイヤーではうまく再生できないプレイヤーがあるかもしれない。テストの結果は、1990年初期にあるメーカーにより製造されたCDプレイヤーが1機だけ再生不能であった。

5. 原理的には、CDに記録されたオーディオ部分のデータは変更せず、「再生には必要ないが、コピーの際には必要な、オーディオ以外のデータを複数箇所変更する」技術であるという。そして、CDの製造装置は変更する必要がない。

6. Farenheitという、アメリカのカントリー音楽専門のレコード会社が、いち早くこの技術を導入した新CDを本年第一四半期に市場に出す。また、海賊盤CDが40%を超えたといわれる「台湾」の、Will-Shown TechnologyというCD製造会社が、このSUN-X技術をライセンス契約し、本年1月1日発効する。

ニュース記事には、次のコメントがありました。

「SDMIでは著作権保有者が違法コピーを追跡し、複製コピーの再生を妨げる仕組みを作るため、CDの各曲にデジタルの「透かし」(Watermark)を入れる技術に取り組んでいるが、SDMIの提案する技術では、店頭で買ったCDから音楽をコピーしてネットに流すという行為を防止できない。

SunnCommの技術が成功を収め、広く採用されるようになれば、レコード業界にとっては大きな快挙だ。レコード業界は、著作権を侵害する企業とさまざまな方面で戦い、辛酸をなめてきた。」

一日も早く、この種の技術が完成され、それが広く世界のレコード業界に採用されて、インターネット海賊、CD-R海賊が撲滅され、人間の英知が生み出した新

しい技術が、健全な音楽産業、音楽文化の更なる発展に寄与するよう切望しています。



公正取引委員会 「著作物再販制度の見直しに関する報告書」を公表

昨年12月7日(木)、音楽用CD等の著作物再販制度の見直しについて検討を進めている公正取引委員会は、再販対話や著作物再販制度の運用の是正に関する関係業界の取組状況等について、報告書「著作物再販制度の見直しに関する検討状況及び意見紹介について」を取りまとめ、公表しました。

当協会では永年に亘って、同制度が多様な著作物の発売と国民の誰もがどこでも同一価格で入手できることを可能にし、我が国の音楽文化の発展に寄与しているという観点から「音楽用CD等の再販制度存続の必要性」を強く訴え続けています。

また、レコード業界では、再販制度を硬直的に運用しないように、時限再販期間の短縮、販売店におけるポイントカードやサービス券、そして時限再販期間経過商品の値引セールや廃盤セールの実施、多様な価格帯による発売等を行い、積極的に再販制度の弾力運用に取り組んでいます。

当協会では、レコードの再販制度による価格の安定こそが、音楽コンテンツ間の競争を促し、結果として文化の発展に繋がるとして、音楽用CD等の再販制度存続の必要性について、広く理解を求めています。

なお、公正取引委員会では、本件についての各方面からの意見や、再販制度の運用の是正状況等を踏まえて、本年春を目途にこの著作物再販の存廃について最終結論を出すこととなっています。

平成12年度文化庁芸術祭贈呈式開催

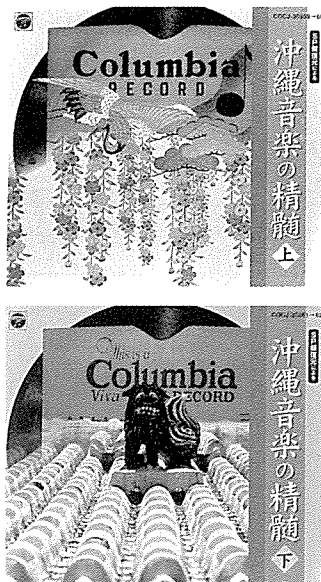
平成12年度(第55回)芸術祭贈呈式が、1月18日(木)、千代田区紀尾井町の赤坂プリンスホテル「ロイヤルホール」にて行われ、レコード部門では大賞1作品、優秀賞3作品が選ばれました。

以下に、作品一覧に掲載されたコメントと共に4作品をご紹介します。

■ 大賞

〔SP盤復元による 沖縄音楽の精髓(上)(下)〕

日本コロムビア株式会社

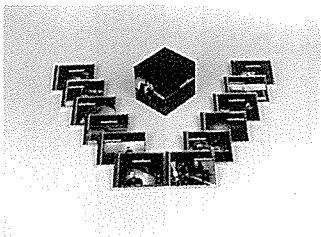


昭和9～11年に録音された沖縄音楽のSP盤を復元したきわめて貴重なCDである。古典音楽だけでなく、沖縄・宮古・八重山各諸島の民謡も含み、名人たちの演奏により、当時の沖縄音楽の主要な情況がよくわかるように構成されている。ごく一部を除き音質も悪くなく、鑑賞にも堪える作品になっている。

■ 優秀賞

〔横山幸雄／ベートーヴェン12会〕

株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント



横山幸雄が短い期間に彩の国さいたま芸術劇場で行った、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲連続演奏をラ

イブ収録したもので、全32曲にわたってむらなく高水準の演奏を繰り広げているのは驚異的。この日本の中堅ピアニストの現在を知る上で最良のプログラムであり、同時にそれを録音して集成した企画の点も評価できる。

〔寺神戸亮／バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ〕

日本コロムビア株式会社



気鋭のバロック・ヴァイオリン奏者、寺神戸亮が達成したバッハの無伴奏ヴァイオリン・パルティータとソナタの全曲録音。緻密さとしなやかさを兼ね備えた、師のクイケン先駆的名演をもしのぐ演奏の質の高さもさることながら、寺神戸自身によるブックレットのコメントから窺える彼の音楽観の深さと相まって、一つの＜思想＞を感じさせる。

〔王は受け継がれゆく／イギリス近代名曲選〕

株式会社フォンテック



野中図洋和指揮による陸上自衛隊中央音楽隊が、イギリスの吹奏楽作品に取り組んだ意欲的な作品集である。吹奏楽の重厚なダイナミズムだけでなく、柔軟かつ繊細、多彩で豊かな表現が印象深く、作品ごとに様々に物語やドラマをビビットに表現。なによりも万人が親しめる楽しさにあふれているのが魅力的であり、高度な音楽的、芸術的表現により、吹奏楽の奥深さを教えてくれる。

2000年レコード生産実績

2000年(1～12月)の当協会加盟24社(受託を含む)のオーディオレコード、ビデオレコードを合わせた総生産数量は、4億8,030万枚・巻(前年比100%)、総生産金額は、6,774億円(前年比100%)となり横這いとなりました。

オーディオレコードの生産数量は、4億3,314万枚・巻(前年比97%)、金額は5,398億円(前年比95%)の2年連続の前年割れとなり厳しい市況を反映する結果でした。

その内訳は、8センチCDの数量は3,312万枚(前年比38%)、金額は150億円(前年比28%)となり大幅なダウンとなりましたが、12センチCDシングルは数量1億460万枚(前年比171%)、金額は824億円(前年比176%)で数量・金額ともに大幅に伸長し、シングルは8センチCDから12センチCDへの移行が急速に進みました。12センチCDアルバムは数量2億7,633万枚(前年比100%)、金額は4,264億円(前年比95%)となり、数量は横這いでしたが金額は前年実績を下回りました。また、カセットテープは数量1,717万巻(前年比98%)、金額139億円(前年比94%)となりました。

ビデオレコードの生産は、LD、VHD、ビデオテープは前年実績を下回ったものの、DVDが数量2,299万枚(前年比364%)、金額は558億円(前年比358%)と急伸したことが大きく影響し、全体では数量が4,716万枚・巻(前年比136%)、金額は1,376億円(前年比126%)となり大幅な増産となりました。

2000年1月～12月レコード 総生産高

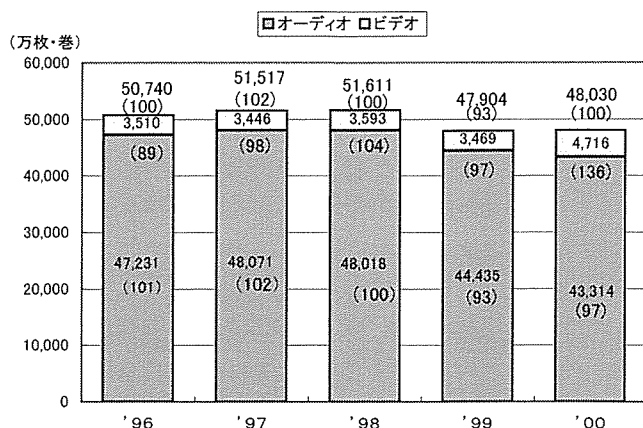
種 類		数量 (万枚・巻)	構成比 (%)	前年比 (%)	金額 (億円)	構成比 (%)	前年比 (%)
オーディオ レコード	8 cm C D	3,312	7	38	150	2	28
	12cmCDシングル	10,460	22	171	824	12	176
	12cmCDアルバム	27,633	58	100	4,264	63	95
	C D 計	41,405	86	98	5,238	77	95
	アナログディスク	191	0	64	21	0	58
	テ ー プ	1,717	4	98	139	2	94
	合 計	43,314	90	97	5,398	80	95
ビデオ レコード	D V D	2,299	5	364	558	8	358
	LD・その他	323	1	69	63	1	56
	テ ー プ	2,094	4	88	755	11	91
	合 計	4,716	10	136	1,376	20	126
総 合 計		48,030	100	100	6,774	100	100

[参考]

AV複合型レコード	17,597	100	106	198	100	85
-----------	--------	-----	-----	-----	-----	----

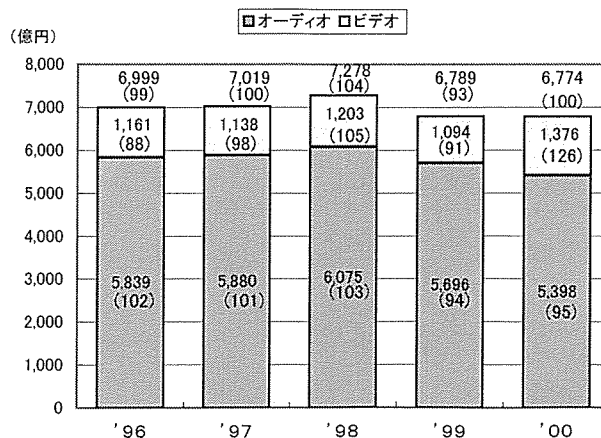
(注)数値は四捨五入により内訳と合計が一致しない場合がある。

1. 生産数量推移



注1. 数値は四捨五入により内訳と合計が一致しない場合がある。
2. ()内は対前年比。

2. 生産金額推移



「著作権等管理事業法」説明会開催 他

「著作権等管理事業法」説明会開催

第150回国会で成立した「著作権等管理事業法」は、今年10月1日に発効します。当協会は、1月25日（木）文化庁長官官房著作権課の川瀬課長補佐と郷治専門職員を講師に迎え、同法の説明会を開催しました。

会員社と事務局から約70名が参加し、約90分の解説に引き続き、約30分間に亘り熱心な質疑応答が行われました。

新しい管理事業法の下、レコードに係る権利がどのように管理され得るのかについて参加者の関心も高く、説明会は成功裡に終了しました。



当協会新年会開催

当協会は、1月9日（火）午後4時から、千代田区永田町の赤坂プリンスホテル「五色の間」において、恒例の新年会を開催しました。

当日は、国会議員の先生方を始め、関係諸官庁、マスコミ、関係団体、販売流通業界から多数の方々が出席され、賀詞交換とご歓談の場として、和やかな一時を過ごしました。出席者は、会員各社からの出席者を含め約680名と、盛大で晴れやかな会となりました。

今回は、新たな試みとして、現在音楽産業が抱えている諸問題とこれに関する課題をまとめたビデオの上映を行い、ご来場の皆様に更なる理解を深めていただきました。

なお当日は、政務ご多忙の中、太田昭宏（公明・衆）、小野晋也（自民・衆）、小林興起（自民・衆）、斉藤鉄夫（公明・衆）、斉藤斗志二（自民・衆）、沢 たまき

（公明・参）、村上誠一郎（自民・衆）の7名の先生方（五十音順）にご臨席を賜りました。

関係官庁人事異動

省庁再編に伴い、当協会関係官庁で名称の変更がありました。異動と併せてお知らせします。（敬称略）

名称変更（平成13年1月6日付）

文部科学省（文部省より名称変更）

経済産業省（通商産業省より名称変更）

異動及び名称変更（平成13年1月6日付）

文化庁

次長 銭谷真実（前・内閣審議官）

*前任の伊勢呂裕史氏は文部科学省総括審議官へ
文化部長 遠藤 啓（前・文化庁長官官房総務課長）
著作権課長 岡本 薫（前・文部省生涯学習局学習
情報課長）

*前任の吉田大輔氏は文部科学省研究振興局情報
課長へ

著作権課課長補佐 川瀬 真（前・同課著作権調査
官）

国際課（国際著作権課より名称変更）

国際課長 石野 利和（前・国際著作権課長）

当協会理事交替

12月に行われた当協会臨時総会において、丸山茂雄氏（ソニー・ミュージックエンタテインメント前代表取締役社長）の理事辞任に伴い、後任理事として、岸栄司氏（ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役社長）の就任が承認されました。

当協会人事異動

当協会は1月1日付で、以下の人事異動を発令しました。

委 嘱：千葉卓男常務理事 事務局長委嘱を解く

昇 格：生野秀年 事務局長兼法務部部长
（旧 法務部部长）

■アルバム (25作品)

【邦 楽】

●3ミリオン

Duty/浜崎あゆみ/2000.09.27 (AVT)

●2ミリオン

DRIVE ~ GLAY complete BEST/GLAY/
2000.11.29 (PC)

●ミリオン

ゆず一家/ゆず/1998.07.23 (SN)

トビラ/ゆず/2000.11.01 (SN)

ELEVEN/B'z/2000.12.06 (BM)

●プラチナ

ロマンチスト・エゴイスト/ポルノグラフィティ/
2000.03.08 (SME)THE BEST OF DETECTIVE CONAN ~名探偵コ
ナンテーマ曲集~/V.A./2000.11.29 (ZA)

LOVE LIFE/hitomi/2000.12.13 (AVT)

break the rules/安室奈美恵/2000.12.20
(AVT)

●ゴールド

小さな丸い好日/aiko/1999.04.21 (PC)

ROOKEY/RIZE/2000.11.22 (SME)

【洋 楽】

●2ミリオン

ザ・ビートルズ1/ザ・ビートルズ/2000.11.13
(TO)

●トリプル・プラチナ

MAX BEST/V.A./2000.11.22 (SME)

music of the millennium/V.A./2000.11.29
(UM)

●プラチナ

オール・ザ・シーズンズ・オブ・ジョージ・ウィンストン/
ジョージ・ウィンストン/1998.02.21 (BMG)エルトン・ジョン・グレイテスト・ヒッツ/ エルト
ン・ジョン/2000.05.10 (UM)エンド・オブ・ザ・ロード~ボーイズIIメン・バラード・
コレクション/ボーイズIIメン/2000.05.17 (UM)ネイザン・マイケル・ショーン・ウォンヤ/ ボーイ
ズIIメン/2000.08.30 (UM)

pure/V.A./2000.09.20 (UM)

●ゴールド

パズル/タヒチ80/2000.04.21 (V)

ボーン・トゥ・ドウ・イット/クレイグ・ディヴィ
ッド/2000.09.06 (V)ラ ルーナ/サラ・ブライトマン/2000.09.06
(TO)THE BEST OF SUPER EUROBEAT 2000/
V.A./2000.11.22 (AVT)ダンスマニア・スピード ベスト2001/V.A./
2000.11.24 (TO)

NOW11/V.A./2000.12.26 (TO)

■シングル (11作品)

【邦 楽】

●クワドラプル・プラチナ

Everything/Misia/2000.10.25 (BMG)

●ミリオン

M/浜崎あゆみ/2000.12.13 (AVT)

●ダブル・プラチナ

恋愛レボリューション21/モーニング娘。/
2000.12.13 (EP)

●プラチナ

箱根八里の半次郎/氷川きよし/2000.02.02
(C)

月光/鬼束ちひろ/2000.08.09 (TO)

果実/広末涼子/2000.11.08 (WJ)

Lily's e.p./Dragon Ash/2000.11.29 (V)

サボテン/ポルノグラフィティ/2000.12.06
(SME)I miss you ~時を越えて~/Misia+DCT/
2001.01.01 (BMG)

●ゴールド

花火/aiko/1999.08.04 (PC)

even if/平井 堅/2000.12.06 (SME)

※AR: アンティノスレコード/AVT: エイベックス/BG: ビーグラムレコーズ/BM: ルームスレコーズ/BMG: BMGファンハウス/C: 日
本コロムビア/CA: カナリー企画/CR: 日本クラウン/CT: カッティング・エッジ/EP: ゼティマ/EW: イーストウエスト・ジャパン/
FL: フォーライフレコード/GZ: ギザ/JE: ジャニーズ・エンタテインメント/JF: J-FRIENDS P./K: キングレコード/ME: メルダック/
MME: マーキュリー・ミュージックエンタテインメント/PC: ボニーキャニオン/PG: ポリグラム/PI: バイオニアLDC/PO: ポリドール/
PS: ポリスター/PZ: ピザ・オブ・デス・レコーズ/SME: ソニー・ミュージックエンタテインメント/SN: SENHA & CO./TE: テイチクエ
ンタテインメント/TF: トイズ・ファクトリー/TJC: 徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO: 東芝EMI/UM: ユニバーサルミュージッ
ク/V: ビクターエンタテインメント/VAP: バップ/WJ: ワーナーミュージック・ジャパン/ZA: ヴァインレコーズ

レコード産業、CD工場のための著作権ルールに関するガイドラインを作成

IFPI（国際レコード産業連盟）は、CD工場向けの著作権ルールに関するガイドライン「複製業者の著作権一事業を守る方法」のリーフレットをBIEM（録音権協会国際事務局）と共同で作成し、今年1月、全世界約750の工場に配布しました。

CD海賊は世界的に広がっており、産業規模は、年間45億ドルであると推測されています。特に問題とされているのが、合法的なCD需要量に対し、約2倍もの過剰な生産能力を持ち合わせていることです。

ガイドラインでは、海賊版の不測の複製を避ける方法として、工場による著作権処理の事前確認義務を強調しています。これは、工場が受注前に、プレス発注者が、楽曲と音源の権利者であるか権利者の使用許諾を得ているかの確認を必要とするものです。

昨年発足したIFPIの訴訟部は、海賊版の生産を理由に該当の工場から約300万ドルの賠償金支払について合意を得ています。

IFPI訴訟部長、ジェフ・テイラー氏は、「この事例はCD工場の過失には損害賠償を課せられることを示す良い例。IFPIは工場が義務を理解し、海賊版受注を回避することを支援したい。そうすることで、合法的な工場を明確、且つ安全にすることを目指したい」と述べています。

このガイドラインのリーフレットは、標準海賊対策リーフレット「CDのマスタリング・製造工場の合法ビジネス」と一緒に配布されています。

(IFPIプレス 01.01.10)

IFPI、インターネット海賊対策の部署を創設

IFPIはインターネット上での権利侵害ファイルの問題に対処するために、インターネット海賊対策部（IAPU）を創設しました。マネージャーは6月にIFPIに入り、他の3名のインターネット監視員と一緒に業務に当たっています。全てはIAPUのヘッドに報告されます。新たに3名の職員が入る予定です。

IAPUの活動は以下の通りです。

- ・ インターネットの権利侵害サイトを検索する
- ・ 警告書を発送する
- ・ ファイルの分布状況を監視する
- ・ 海賊業者等の活動と傾向を概観する
- ・ デジタル環境での法的・技術的助言をする
- ・ インターネット海賊訴訟のための証拠を準備する

IAPUの重要な役割は、インターネット上の違法行為への具体的な取組のノウハウを各国のIFPI担当者に教育することです。ナショナルグループと定期的にインターネット海賊版のセッションを開いている他、CD-ROMの訓練プログラムが作成され、希望があれば、ナショナルグループに無料配布されます。

担当責任者は以下のように述べます。「ここは全知識を発信するところである。IFPIの一般的な海賊政策と、レコード会社、アーティスト、ドットコム業者全てが安全な環境でインターネットによる音楽利用の利益を享受したいというIFPIの会員の希望を受けてこの部署が創設された。」

IAPUは、数ヶ月内に、サイトを立ち上げる予定です。

(IFPIネットワーク 00.11)

会議メモ（主なもの）

（1月1日～1月31日）

- 1・10 レコード制作基準倫理委員会
- 1・11 CSM-WG
- 1・12 日本GD大賞申請担当者説明会
- 1・15 DVD-AR検討WG
洋楽部会
- 1・16 日本GD大賞実行委員会
洋楽宣伝専門部会
営業部会
邦楽制作部会

- 1・17 インターネット部会
資材専門部会
正副会長会議
著作権部会
- 1・18 業務委員会
共通目的事業検討会議
SDMI連絡会議
- 1・19 出庫WG
DMI-WG
- 1・22 再販プロジェクト
- 1・23 消費者専門部会
法制委員会
見本盤プロジェクト

- 1・24 品質管理専門部会
情報システム部会
宣伝部会
- 1・25 著作権等管理事業法説明会
デジタル音楽情報委員会
ビデオ部会
- 1・26 理事会
- 1・30 技術委員会
調査統計部会
- 1・31 洋楽企画専門部会
業界誌懇談会



レコード生産実績

2000年12月度(00年12月1日～00年12月31日)

社団法人 日本レコード協会

数量 : 千枚・巻

単位

金額 : 百万円

表1. オーディオレコード

			12月 実績						2000年(1月～12月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
シングル	8cm CD	邦	1,076	3	36	437	1	21	32,815	8	38	14,949	3	28
		洋	1	0	11	1	0	12	308	0	45	96	0	25
		計	1,077	3	36	437	1	21	33,124	8	38	15,046	3	28
	12cm CD	邦	6,825	20	108	5,210	12	106	103,677	24	173	81,600	15	179
		洋	67	0	55	57	0	59	924	0	68	793	0	70
		計	6,891	20	107	5,267	12	105	104,601	24	171	82,393	15	176
	小計	邦	7,900	23	85	5,646	13	81	136,492	32	94	96,549	18	97
		洋	68	0	52	58	0	57	1,233	0	60	889	0	58
		計	7,968	23	85	5,704	13	81	137,725	32	93	97,439	18	97
12cmCDアルバム		邦	17,001	50	86	25,440	58	82	197,685	46	101	312,743	58	95
		洋	7,653	22	121	11,272	26	121	78,642	18	98	113,697	21	94
		計	24,654	72	94	36,712	84	91	276,327	64	100	426,440	79	95
CD合計		邦	24,901	73	86	31,087	71	82	334,177	77	98	409,292	76	95
		洋	7,721	23	119	11,329	26	121	79,875	18	97	114,586	21	94
		計	32,623	95	92	42,416	97	90	414,052	96	98	523,878	97	95
アナログディスク		邦	87	0	84	86	0	84	1,609	0	63	1,630	0	55
		洋	33	0	69	55	0	100	305	0	68	440	0	74
		計	120	0	79	142	0	89	1,914	0	64	2,069	0	58
カセットテープ		邦	1,521	4	85	1,269	3	89	17,090	4	98	13,791	3	94
		洋	6	0	116	5	0	80	85	0	99	77	0	92
		計	1,527	4	85	1,275	3	89	17,174	4	98	13,868	3	94
総合計		邦	26,509	77	86	32,443	74	82	352,875	81	98	424,712	79	95
		洋	7,760	23	119	11,390	26	120	80,265	19	97	115,103	21	94
		計	34,269	100	91	43,832	100	90	433,140	100	97	539,816	100	95

表2. ビデオレコード

	12月 実績						2000年(1月～12月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	2,880	61	253	8,265	53	275	22,990	49	364	55,810	41	358
LD・その他	224	5	78	475	3	69	3,231	7	69	6,279	5	56
テープ	1,606	34	59	6,726	43	73	20,937	44	88	75,468	55	91
合計	4,709	100	113	15,465	100	120	47,158	100	136	137,557	100	126

表3. オーディオ/ビデオ合計

	12月 実績						2000年(1月～12月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	34,269	88	91	43,832	74	90	433,140	90	97	539,816	80	95
ビデオ	4,709	12	113	15,465	26	120	47,158	10	136	137,557	20	126
合計	38,978	100	94	59,298	100	96	480,298	100	100	677,373	100	100

<参考>表4. 複合型CD(CD-G、CD-I、CD-ROMなど)

	12月 実績						2000年(1月～12月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
邦盤	15,268	100	72	2,435	100	90	175,966	100	106	19,791	100	85
洋盤	0	0	43	0	0	26	0	0	5	0	0	1
合計	15,268	100	72	2,435	100	90	175,966	100	106	19,791	100	85

備考 1. 本年実績は、会員会社「24社」の集計である。当会員会社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

2000年1月～12月新譜数

2000年（平成12年）の1～12月に発売された新譜数を集計しました。

図1. オーディオレコード新譜数

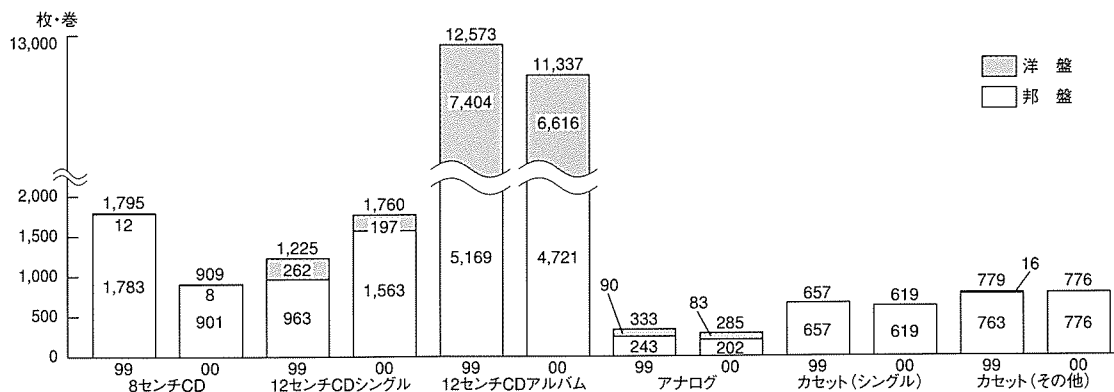


表1. オーディオレコード／複合型レコード(CD-G・CD-Iなど)新譜数

単位:枚・巻

		8cmCD	12cmCD			MD	アナログ	カセット		合計	複合型	
			シングル	アルバム	計			シングル	その他		CD-G	その他
邦盤	(1) 歌謡曲											
	a. 演歌	440	7	360	367	0	4	409	356	1,576	0	0
	b. ポップス・歌謡曲	233	362	671	1,033	1	9	158	127	1,561	0	0
	c. ニューミュージック	96	1,096	1,878	2,974	15	188	0	11	3,284	0	0
	小計	769	1,465	2,909	4,374	16	201	567	494	6,421	0	0
	(2) 軽音楽	1	12	424	436	0	0	0	8	445	0	0
	(3) 民謡・純邦楽	33	0	101	101	0	0	41	152	327	0	0
	(4) 教育・教材・童謡・童話	3	2	164	166	0	0	1	22	192	0	0
	(5) アニメーション	89	58	532	590	0	0	2	34	715	0	7
	(6) クラシック	0	1	270	271	0	1	0	0	272	0	0
洋盤	(7) カラオケ	0	0	4	4	0	0	8	5	17	59	78
	(8) その他	6	25	317	342	0	0	0	61	409	0	37
	邦盤計	901	1,563	4,721	6,284	16	202	619	776	8,798	59	122
		(51%)	(162%)	(91%)	(102%)	(80%)	(83%)	(94%)	(102%)	(92%)	(113%)	(88%)
	(1) ポピュラー											
	a. ロック・ディスコ	5	149	2,610	2,759	1	12	0	0	2,777	0	0
	b. ジャズ・フュージョン	0	7	1,146	1,153	0	65	0	0	1,218	0	0
	c. ポピュラーソング	3	29	475	504	0	2	0	0	509	0	0
	d. 映画音楽	0	0	251	251	0	2	0	0	253	0	0
	e. その他	0	5	91	96	0	2	0	0	98	0	0
	小計	8	190	4,573	4,763	1	83	0	0	4,855	0	0
	(2) クラシック	0	6	1,998	2,004	0	0	0	0	2,004	0	0
	(3) その他	0	1	45	46	0	0	0	0	46	0	1
	洋盤計	8	197	6,616	6,813	1	83	0	0	6,905	0	1
		(67%)	(75%)	(89%)	(89%)	(8%)	(92%)	-	-	(89%)	-	(17%)
合計		909	1,760	11,337	13,097	17	285	619	776	15,703	59	123
		(51%)	(144%)	(90%)	(95%)	(52%)	(85%)	(94%)	(100%)	(90%)	(111%)	(85%)

注: ()内は対前年比

図2. ビデオレコード新譜数

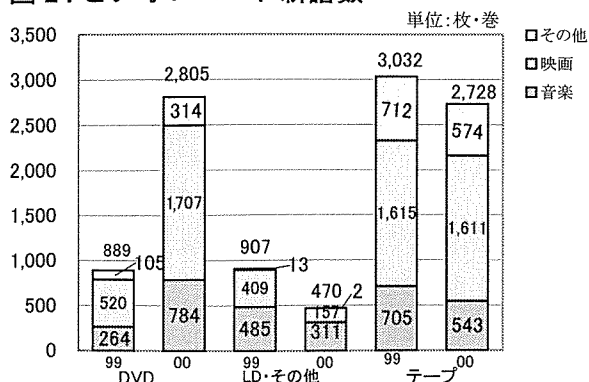


表2. ビデオレコード新譜数

単位:枚・巻

種類		ディスク		テープ	合計
		DVD	LD・その他		
音楽	邦楽	469	12	329	810
	洋楽	244	1	214	459
	カラオケ	71	298	0	369
映画	邦画	581	11	472	1,064
	洋画	595	77	374	1,046
	アニメ	531	69	765	1,365
その他		314	2	574	890
計		2,805	470	2,728	6,003
		(316%)	(52%)	(90%)	(124%)

注: ()内は対前年比

レコード・CDの再販制度は、 日本の音楽文化を育てています。

再販制度により、日本では数多くの作品が発表されています。
それにより消費者（音楽ファン）には、「商品選択の場」が確保
され、また、多くの作家、実演家には幅広いチャンスが与えら
れるとともに、次世代を担う新しい才能が生まれています。



2001年2月号

発行人 富塚 勇

編集人 木村 三郎

発行日 2001年2月10日

発 行 社団法人 日本レコード協会

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル2F

TEL.03-3541-4411 (代)

FAX.03-3541-4460 (代)

URL:<http://www.jmusic.ne.jp/>